

## ◆ 今週のコメント

- ・ **デング熱**の報告が1例(男性, 30歳代)あります。推定感染地域は国外(ジブチ)です。本年の累積報告数は11例となり、「感染症法」が施行された平成11年4月以降, 最も多い報告数となっています。京都市においては, 平成15年以降, 毎年デング熱の報告があり, 最近では, 平成20年5例, 平成21年2例, 平成22年4例, 平成23年3例, 平成24年7例の報告があります。
- ・ **梅毒(早期顕症・Ⅱ期)**の報告が1例(男性, 40歳代)あります。推定感染地域は国内で, 推定感染経路は性的接触(異性間)です。本年の累積報告数は7例となっています。
- ・ **感染性胃腸炎**の定点当たり報告数は9.54(391例)で, 5週連続で増加しています。全国でも同様に増加しています。例年, ノロウイルス感染を原因とする感染性胃腸炎が冬季に増加し, 11月～1月にピークを形成しますので, 今後の動向にご注意ください。
- ・ **RSウイルス感染症**の定点当たり報告数は1.00(41例)で, 2週連続で減少しているものの, 依然として過去5年平均値を上回っています。「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の同時期と比較して, 最も多い報告数となっています。全国でも同様に最も多い定点当たり報告数となっています。
- ・ **インフルエンザ**の定点当たり報告数は0.53(36例)で, 前週 0.38(26例)に比べ約1.4倍増加しています。

詳細は下記ホームページをご覧ください。

○京都市感染症情報センターホームページ「インフルエンザ発生状況」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>

## ◆ 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は1.20(49例)で, 第46週(11月11日～11月17日)以降, 5週連続で増加しており, 本年で最も多い報告数となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 四類: デング熱 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- ・ 五類: 梅毒(早期顕症・Ⅱ期) 1例【1月以降の累積報告数 7例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

| 定点              | 感染症名            | 定点当たり報告数 | 報告数 |
|-----------------|-----------------|----------|-----|
| インフルエンザ*        | インフルエンザ         | 0. 53    | 36  |
| 小児科<br>(降順5位まで) | ① 感染性胃腸炎        | 9. 54    | 391 |
|                 | ② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 1. 34    | 55  |
|                 | ③ 咽頭結膜熱         | 1. 20    | 49  |
|                 | ④ RSウイルス感染症     | 1. 00    | 41  |
|                 | ⑤ 水痘            | 0. 98    | 40  |
| 眼科              | 流行性角結膜炎         | 1. 60    | 16  |

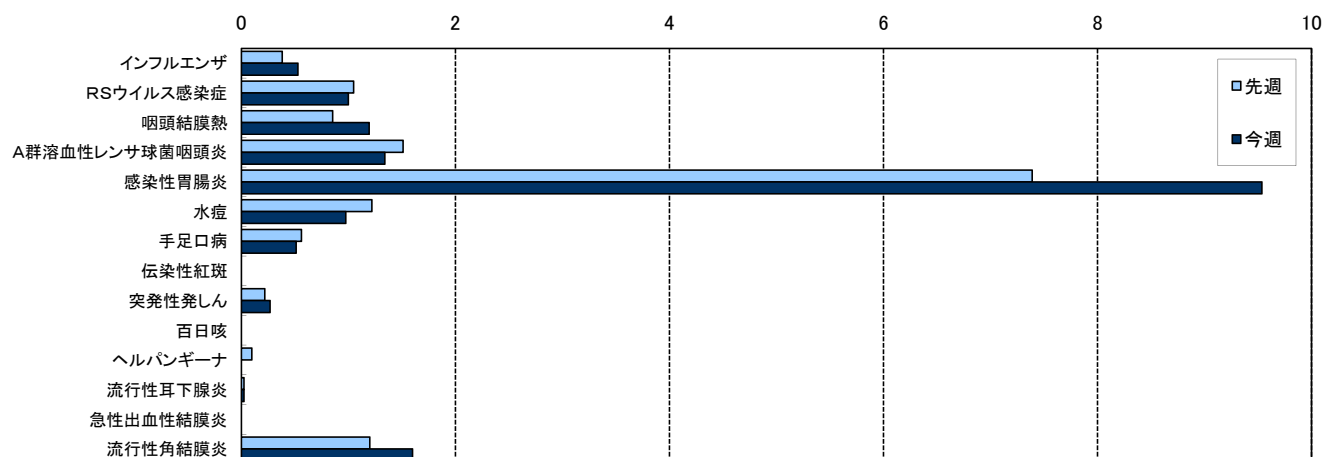
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <咽頭結膜熱>

(注) 京都市のデータは, 平成25年12月19日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

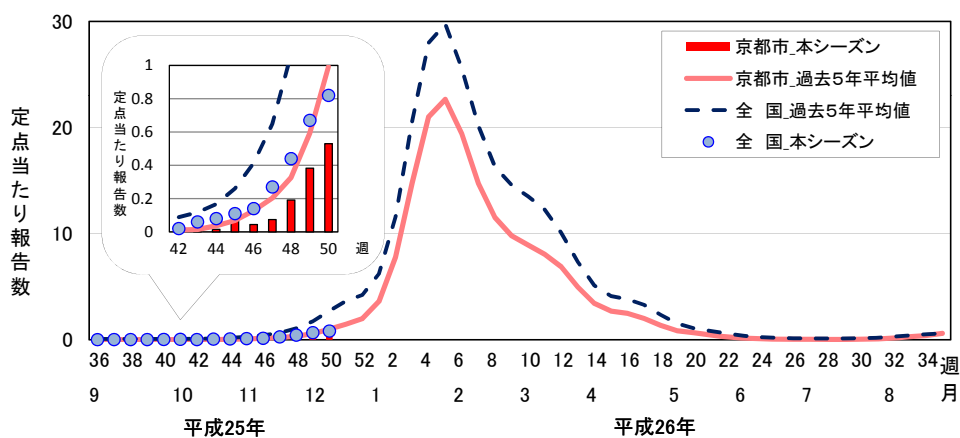
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第50週)と先週(第49週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

| 週                 | 報告数(例) |
|-------------------|--------|
| 第46週              | 3      |
| 第47週              | 5      |
| 第48週              | 13     |
| 第49週              | 26     |
| 第50週              | 36     |
| 累積報告数<br>(第36週以降) | 94     |

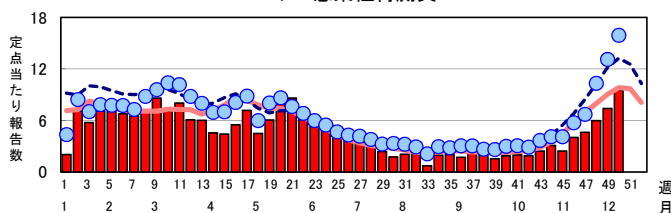


※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

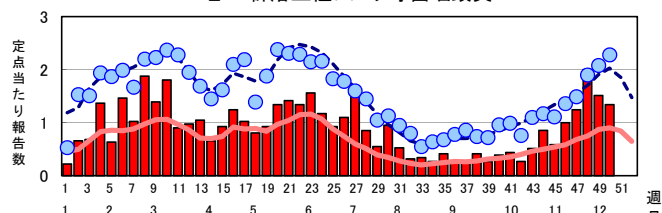
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

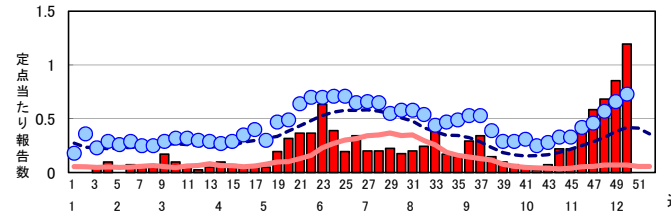
### 1 感染性胃腸炎



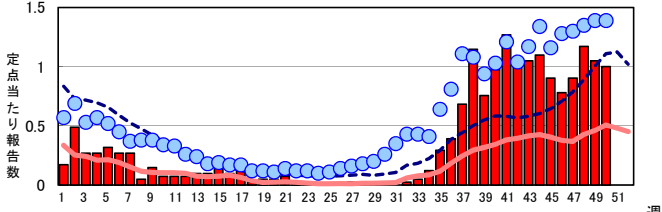
### 2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



### 3 咽頭結膜熱

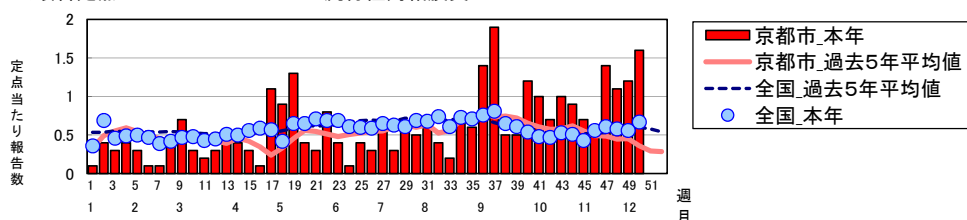


### 4 RSウイルス感染症



<眼科定点>

### 流行性角結膜炎

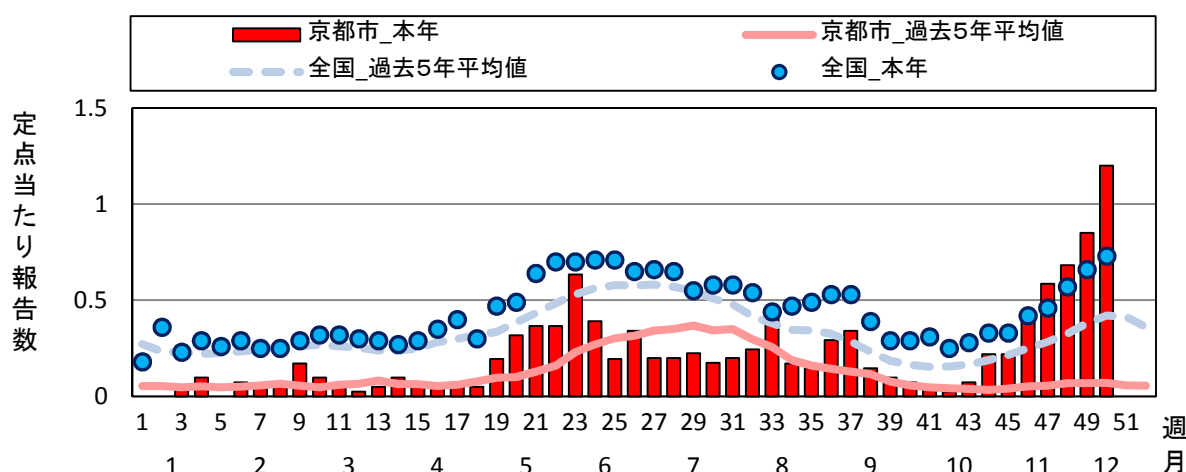


## 第50週(12月9日～12月15日)トピックス: <咽頭結膜熱>

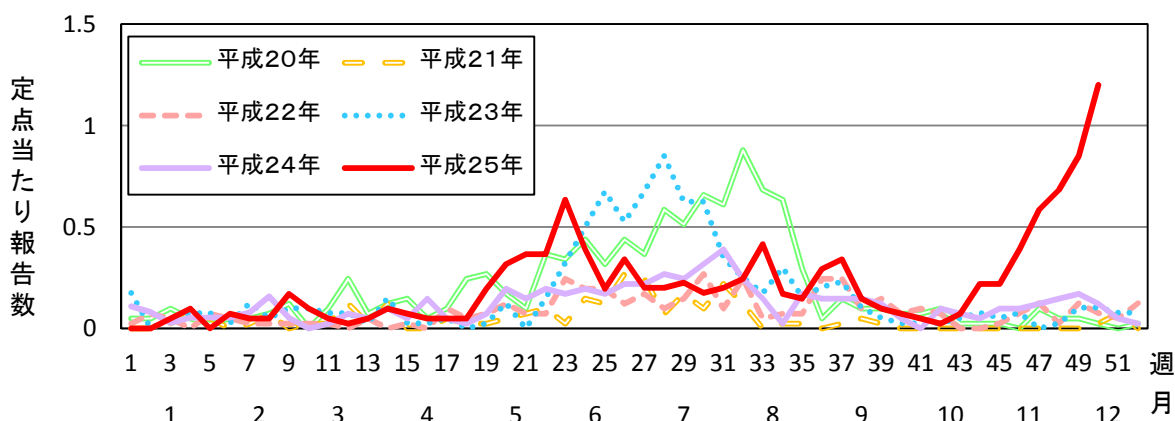
咽頭結膜熱の定点当たり報告数は1.20(49例)で、第46週(11月11日～11月17日)以降、5週連続で増加しており、本年度で最も多い報告数となっています。全国でも同様に最も多い報告数となっています。本年6月に流行のピークを迎え、9～10月にかけていったん落ち着きましたが、11月以降増加に転じています。今後の動向にご注意ください。

都道府県別においては、34都道府県で前週より増加しています。そのうち近畿6府県では、4府県(京都府、大阪府、奈良県、和歌山県)で増加しています。

### 本市及び全国の定点当たり報告数の推移



### 本市の定点当たり報告数の年推移



### 都道府県別定点当たり報告数の推移

